

商品名 カルナクリンカプセル25 添付文書情報

一般名	カリジノゲナーゼカプセル	薬価	9.60
規格	25単位1カプセル	区分	
製造メーカー	三和化学研究所	販売メーカー	三和化学研究所
薬効	2. 個々の器官系用医薬品 24. ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む） 249. その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む） 2491. 循環ホルモン剤		

カルナクリンカプセル25の用法・用量

通常成人1回1～2カプセル、1日3回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。再評価結果の用法・用量は次のとおりである。カリジノゲナーゼとして、通常成人1日30～150単位を1日3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

カルナクリンカプセル25の効能・効果

- [1] 次記疾患における末梢循環障害の改善：高血圧症、メニエール症候群、閉塞性血栓血管炎（ビュルガー病）。
- [2] 次記症状の改善：更年期障害、網脈絡膜の循環障害。

カルナクリンカプセル25の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

2. その他の副作用：

- [1] 過敏症：（0.1～5%未満）発疹、（0.1%未満）そう痒感、じん麻疹。
- [2] 循環器：（0.1%未満）心悸亢進。
- [3] 消化器：（0.1～5%未満）胃部不快感、嘔気、嘔吐、食欲不振、上腹部痛、下痢、便秘。
- [4] 肝臓：（頻度不明）AST上昇、ALT上昇、肝機能障害。
- [5] その他：（0.1～5%未満）ほてり、（0.1%未満）頭痛、頭重、眠気、倦怠感。

再評価結果を含む。

カルナクリンカプセル25の使用上の注意

【禁忌】

脳出血直後等の新鮮出血時の患者〔血管拡張作用により出血を助長するおそれがある〕。

【妊婦】

治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

【授乳婦】

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

【高齢者】

減量するなど注意すること（一般に生理機能が低下している）。

【相互作用】

- 併用注意：アンジオテンシン変換酵素阻害剤〔過度の血圧低下が引き起こされる可能性がある（本剤のキニン産生作用とアンジオテンシン変換酵素阻害剤のキニン分解抑制作用により、血中キニン濃度が増大し、血管平滑筋弛緩が増強される可能性がある）〕。

【適用上の注意】

- 薬剤交付時の注意：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある）。

【保管上の注意】

室温保存。



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』